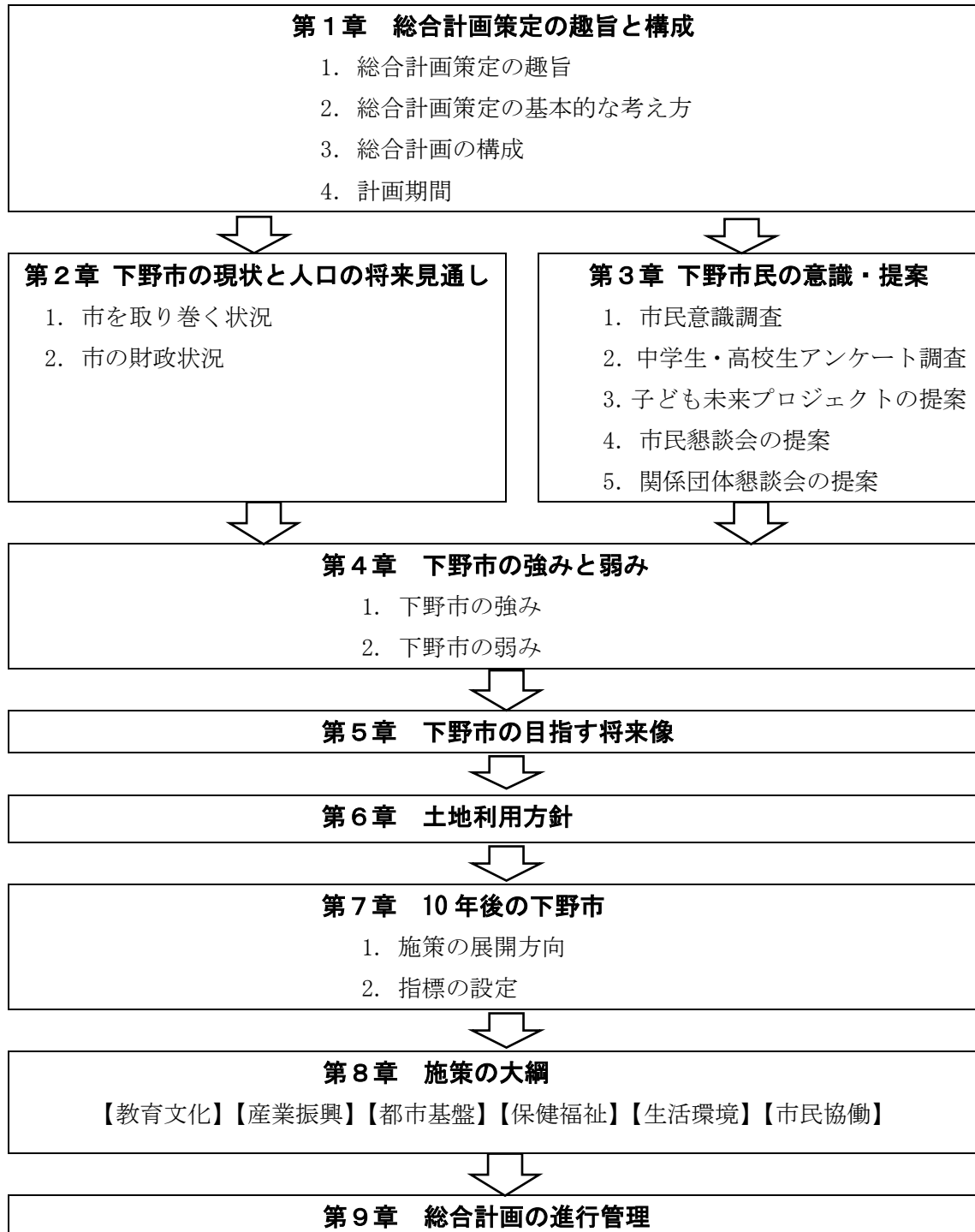


第二次下野市総合計画 基本構想（骨子案）について

第二次下野市総合計画 基本構想（骨子案）フロー



第二次下野市総合計画 基本構想（骨子案）

第1章. 総合計画策定の趣旨と構成

計画策定にあたっての趣旨や計画の構成・期間など、計画の前提になる項目を整理する。

1. 総合計画策定の趣旨

平成26年度から施行された下野市自治基本条例の理念である「市民が主役のまちづくり」を目指すとともに、市民の幸福感を高めることを主眼とした「第二次下野市総合計画」を策定することを記述する。

2. 総合計画策定の基本的な考え方

総合計画の策定にあたっては、次に掲げる視点に基づき、計画策定の段階から多くの市民参画の機会を設けながら進めていくものとする。

- (1) 魅力ある暮らしやすいまちづくり
- (2) 協働によるまちづくりの推進
- (3) 更なるステップアップ
- (4) 将来を見据えた土地利用の推進
- (5) 実効性の高い計画づくり

3. 総合計画の構成

総合計画は、「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」をもって構成する。

4. 計画期間

基本構想の計画期間は10年間（平成28年度から平成37年度まで）とする。基本計画は、前期計画5か年（平成28年度から平成32年度まで）、後期計画5か年（平成33年度から平成37年度）とする。実施計画は2年間のローリング方式により作成する。

第2章. 下野市の現状と人口の将来見通し

下野市における今後の施策展開の前提として、市の現状と人口の将来見通しを解説する。

1. 市を取り巻く状況

次に掲げる事項に関するこれまでの推移を、「全国的な動き」、「下野市の動き」それぞれについて整理する。

- (1) 人口動向
- (2) 産業動向
- (3) 保健、福祉、医療の動向
- (4) 教育・文化の動向
- (5) 安全・安心意識の変化
- (6) 市民参画、協働意識の変化

2. 市の財政状況

下野市の財政状況に関する推移を整理する。

第3章. 下野市民の意識・提案

1. 市民意識調査

下野市の現状や将来の姿など市民の意見や要望を調査し、総合計画に反映するため市在住の18歳以上の市民3,000名に対し実施したアンケート結果を解説する。

2. 中学生・高校生アンケート調査

下野市の次の時代を担う中学・高校生の意見や要望を調査し、総合計画に反映するため市内の中学2年生580名、及び石橋高校、小山北桜高校2年生408名に対し実施したアンケート結果を解説する。

3. 子ども未来プロジェクトの提案

将来の下野市を担う子どもたちのまちづくりに関する思いや夢を提案してもらうため、子ども未来プロジェクトによる将来像、方針、重点的な取組の提案を示す。

4. 市民懇談会の提案

まちづくりに関する分野別テーマや重点課題・取組のアイデアなど、市民の視点からまちづくりへの提案を示す。

5. 関係団体懇談会の提案

分野（保健・福祉、教育・文化、産業・都市基盤、生活環境・地域社会）ごとに団体から参加者を募り、重点課題・取組のアイデアなど、市民の視点からまちづくりの提案を示す。

第4章. 下野市の強みと弱み

第2章「下野の現状と人口の将来見通し」、第3章「下野市民の意識・提案」から導き出された下野市のまちづくりにおける「強み」と「弱み」を整理する。

1. 下野市の強み

- 例)・JR駅を3つ有し、上下水道などの生活基盤が整っています。
- ・自然災害が少なく、安全安心な住みよい地域です。
 - ・栃木県の歴史を語る上で重要な史跡が残されています。
 - ・全国でもトップクラスの医療環境を有しています。
 - ・かんぴょう生産量日本一など、豊かな農作物や自然環境に恵まれています。
 - ・健全な財政運営が図られています。

2. 下野市の弱み

- 例)・高齢化に伴う福祉対策と市民一人ひとりの健康づくり対策が課題です。
- ・市街地の空き店舗が目立ち、駅周辺のにぎわいが失われつつあります。
 - ・情報発信や地域資源のPRなど、観光資源の有効活用が求められます。
 - ・地域コミュニティの希薄化、担い手不足が課題です。

第5章. 下野市の目指す将来像

本市の強みと弱みを踏まえて、目標とされる「下野市の理想的な姿」を導き出し、今後10年間のまちづくりにおいて、市民の幸福感を高めるとともに、地域資源を活用し人や企業を呼び込むことができるまちづくりを目指し、市民や次世代を担う若者が共有できる将来像を設定する。

[将来像] 例)

仮)市民の幸せ 人が集う 文化交流都市
～市民の安心な暮らしと資源を活かした活力の向上～

第6章. 土地利用方針

下野市のさらなる発展のため、本市の優れた立地条件を活かし限られた土地を高度かつ有効利用するために、各種機能を集積させる拠点機能を配置するとともに、市内外の広域的交流を活発にするための連携軸を設定する。

<p>例) (1)拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活文化拠点 ・地域保健福祉拠点 ・高度医療集積拠点 ・工業・流通拠点 ・文化財活用広域連携拠点 ・都市核 <p>(2)広域連携軸</p>

第7章. 10年後の下野市

1. 施策の展開方向

将来像の実現を目指して、今後の施策の展開方向を明らかにする。

<p>市民の幸福感の向上</p> <p>※市民一人ひとりが自身の幸福を追求でき、また、地域の幸福感を高めるための施策の展開</p>
<p>人や企業に選ばれる自治体</p> <p>※豊かな地域資源に磨きをかけ、人や企業から選ばれ、投資を呼び込むための施策の展開</p>

2. 指標の設定

将来像の実現を目指した施策の展開により、10年後にどのような状態になっているかの指標を提案する。

<p>(指標例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸せだと感じている市民の割合 ・下野市を好きだと思う中学・高校生の割合 ・住みやすいと感じる市民の割合

第8章. 施策の大綱

新市建設計画、現下野市総合計画及び今回の施策の展開方向を踏まえ、教育文化、産業振興、都市基盤、保健福祉、生活環境、市民協働の分野別の施策の方向を明確にする。

※下記の欄に記入されている【基本目標・基本施策】については、現総合計画の内容となっております。今後、基本構想審議の中でまとめていきます。

【教育文化】

例) 1 みんなで学び文化を育む、ふれあいのまちづくり

- (1) 次代を担う人材の育成
- (2) 生涯にわたる学びの機会の充実
- (3) 豊かに暮らす文化の振興

【産業振興】

例) 2 知恵と意欲で創造性豊かなまちづくり

- (1) 大都市近郊農業の振興
- (2) 工業・商業の振興
- (3) シティ・セールスの推進

【都市基盤】

例) 3 都市と田園が共生する快適な環境で躍進するまちづくり

- (1) 秩序ある土地利用と快適な住環境づくり
- (2) 人に優しい交通環境の整備
- (3) うるおいのある緑環境の整備

【保健福祉】

例) 4 安心して暮らせる健康で明るいまちづくり

- (1) 生涯健康のまちづくり
- (2) 支え合いのまちづくり
- (3) 保険・年金の充実
- (4) 消費生活の向上

【生活環境】

例) 5 豊かな自然と調和した快適で安全なまちづくり

- (1) 快適な環境の創造
- (2) 安全・安心なまちづくり
- (3) 快適な水環境の形成

【市民協働】

例) 6 市民と行政の協働による健全なまちづくり

- (1) 協働のまちづくりの推進
- (2) 行財政運営の充実
- (3) 広域行政の推進

第9章. 総合計画の進行管理

総合計画に基づいて実施される施策・事業については、PDCAサイクルを実行することで、進捗管理を行う。